



なーふあぬわ



2021年 6月

㊦ がつながって、なはのまちがもっと ㊦ んだふるに。

協働大使通信『なーふあぬわ』81号 2021年（令和3年）6月30日発行
発行者：那覇市協働によるまちづくり推進協議会



意外と知らない！？

「協働大使」Q&A



「協働大使」の制度が始まって14年、協働大使の「わ」がどんどん広がっています。あの街で活躍しているあの人も、この人も、じつは協働大使だったりします。ところで、協働大使ってどんな人たちなのでしょう？

Q. 協働大使とは…？

地域をより良くするために、様々な分野で積極的な活動をされている方々に、これまでの活動に対する敬意と今後の継続した活動への激励として、**那覇市長から委嘱**された方のことです。



Q. どんな人になるの…？

- なは市民協働大学・大学院を卒業された方
 - 協働によるまちづくりを実践した団体の代表者、団体が推薦する方
 - 協働によるまちづくりに積極的に関わっていると認められている方
 - 那覇市各部局から推薦があった方
- …など、なり方はいろいろ！



Q. どんな人がいるの…？

自治会や地域の団体の方、個人で活動している方、市の職員など様々です。ヒト以外にゆるキャラやヤギの協働大使もいるんですよ！



ポクモ協働大使ダヨ〜



Q. 何人いるの…？

2021年5月現在で**842**名の協働大使が活躍しています！



Q. 役割は…？

これまで通りの活動を、それぞれの地域や分野で継続していただく事です。

念願のホームページ開設！

このたび、新たに那覇市協働によるまちづくり推進協議会のホームページを開設しました！

協働大使ってなに？ 協働によるまちづくり推進協議会はなにをすところ？ という基本的な情報から、環境・健康福祉・子ども・広報の各専門部会の活動情報や協働大使通信のバックナンバーなどを掲載しています。

協働大使の活動を見える化し、点を線とし、面となって発信できるようになることを目指しています。皆様の取り組みを紹介しますので、お気軽に情報をお寄せ下さい。



↑
アクセスはこちら！

Q. 「那覇市協働によるまちづくり推進協議会」ってなあに…？

主に那覇市協働大使で組織され、協働によるまちづくりを広げていくために、地域・ひと・団体・行政をつなぎ、みんなが知恵を持ち寄って活動するまちづくりを育成、支援する団体です。**協働大使＝「那覇市協働によるまちづくり推進協議会」のメンバー**となります。



専門部会とは？

『専門部会』とは、テーマ別（例：子ども、福祉）や、課題別（例：環境教育）などで、それぞれ活躍する協働大使が集まって活動している共同体です。協働大使なら誰でも参加できますので、興味のある部会があれば、ぜひ事務局まで連絡をください。

環境部会

設立日：2013年（平成25年）2月26日
市内の小学生を対象に環境出前講座を行ってきた、なは市民協働大学受講生・卒業生等で構成される「にぬふあ星」の皆さんが中心となり設立。現在は、環境分野に携わる他大使も巻き込んでメンバーを増やし、随時小学校で講座を開催している。
また、2013年度に実施した「協働まつりな～ふあぬわ」では環境部会メンバーオリジナル企画、「自然観察ゲーム」を実施し、イベントを大いに盛り上げた。



子ども部会

設立日：2012年（平成24年）9月20日
協議会で、2番目に設立した専門部会。
2012年度は、7月8日（なはの日）に実施した、「ハイサイ！うちなーぐちフェスタ」や、昨年3月に子ども専門部会独自で実施した「ゆいゆいゆい子ども広場」等、親子で楽しめるイベントを行った。また、2013年度に実施した「協働まつりな～ふあぬわ」では、子ども分野で独自の活動をしている新たな人材を巻き込み、子ども達が楽しみながら学べる催しを提供するなどして、活躍した。



健康福祉部会

設立日：2011年（平成23年）12月9日。
協議会で、最初に設立された専門部会。
2012年度は、市民の健康づくりを目的として、健診受診を促す取組を行い、市営住宅自治会等、地域と連携して、特定健診の「まちかど健診」を実施。平成25年度は、さらに活動の幅を広げ、福祉分野における取組も始めた。「認知症になっても安心して住めるまち」を目指して、地域で「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症への理解を深める場を提供している。



広報部会

設立日：2020年（令和2年）12月17日
協議会で最も新しい専門部会。
協働大使の活躍や各専門部会の取り組みなどについて情報収集、発信することを目的としている。協働大使通信「な～ふあぬわ」の発行やFacebookページの運営管理、ホームページの開設・運営などを行う。
協働大使の活動情報および協力してくれる仲間を随時募集中！



小学校区の

校区
まちづくり
協議会
vol.1



2016年、市内6番目に設立され、今年で6年目を迎えました！



国場児童館あがりプロジェクト



国場川こいのぼりまつり

仲井真小学校区まちづくり協議会



仲井真小学校区まちづくり協議会（通称「仲まち協」）は地域に根付いた様々な事業を展開しております。仲井真小学校区には国場川が流れており、仲まち協の事業は国場川をシンボルとした事業を多く行っており、そのうちの1つに「国場川こいのぼりまつり」があります。毎年4月から5月にかけて開催している「国場川こいのぼりまつり」は昨年度及び今年度はコロナ禍のため今年度は中止となりましたが、「こいのぼり」は掲げられ、国場川の空を優雅に泳ぎました。仲まち協は細分化されたコミュニケーションのネットワーク化と地域の子どもたちの成長に貢献したいという想いから設立され、仲井真小学校区内にお住まいの方、働いていらっしゃる方、興味がある方はぜひ一度仲まち協へ訪れてみてください。

仲まち協は若い人の力を求めています。ぜひ、一緒に活動してみませんか。



仲地 政英 会長

大使の

WA

石垣 綾音 さん



理事を務める（一社）災害プラットフォームおきなわの設立総会にて

2019年（平成31年）から協働大使に任命いただきました。琉大からハワイ大学大学院に進学し、都市計画を学んだ後、市民とともにまちづくりを進めたいという思いから、ファシリテーターの国際的な認定資格を取得しました。モットーは「土地と人をつなぐ。コミュニティをエンパワーする」。

現在は「こみゅとば」という屋号でフリーランスのファシリテーター・コミュニティマネジャーとして活動しています。

なは市民協働大学院でコーディネーターをさせていただいた際には、市民と職員の皆さまのやる気とエネルギーを感じました。ますます那覇市のこれからの市民協働の取り組みに期待しつつ、私ももっと那覇市を素敵な場所にしていけるように頑張ります！



石垣 綾音
(いしがき あやね)
那覇市出身。県内各地で交通や防災、市民協働など様々なプロジェクトに関わりながら活動中。



ヨシ子さんの カメラ日記



木枝ちゃん 手拍子で ひやさっさ〜
踊らな（もーらな） 歌らな



宮城ヨシ子さん

1939年伊是名村に生まれる。
68歳より念願だった写真を始める。2012年より
勇崎哲史（光画文化研究所）に師事し、新たな
写真の魅力に目覚める。写真集 FrameOut 出版

vol.1 首里当蔵町自治会

傘でつながる
地域の和

「傘をさしていったら〜」と傘を差し出し、雨の日に傘をささずに登校する子どもたちに「傘を貸す取り組み」を今年1月から始めた首里当蔵町自治会。朝の見守り活動（立哨）をする地域の大人が子どもたちに声を掛け、傘を手渡します。地域住民の協力で住宅の一角に傘を自由に借りることができる無人の傘置き場、「かさステーション」も設置され、地域活性化に一役買っています。「傘」を通して大人が子どもたちに声を掛けるきっかけにもなり、「地域の和が少しずつ広がっています」と当蔵町自治会の仲本久美子自治会長。子どもたちの安心・安全を見守りながら地域のコミュニティが広がる手応えを感じている様子です。



わったーしんか
協働を推進している団体さんを
紹介します！

当蔵町自治会

戦後間もない1950年に設立。226世帯が加入、加入率は約40%、高齢化率は25%（2021年4月現在）。仲本久美子自治会長は「子どもたちが楽しめる行事を増やして若い世代の加入につなげ、地域が活発になってほしい」と話した。



つづきはブログで！

協働 コミュニティ ス！



つながる協働事例

協働に参加するのは個人だけではなく、企業も企業市民として活躍します。人材を繋げることで協働によるまちづくりを推進している那覇市人材データバンクのマッチングとして、コロナ禍で、困窮している人々の力になりたいとジャッキーステーキハウスのご厚意で、ベトナム人留学生・技能実習生のコミュニティへ牛丼30食分が提供されました。素敵な協働事例です。



ちっちゃく、おきな祭

感染症予防を徹底して開催した「島ぜんぶでおきな祭 第13回沖縄国際映画祭」。特に桜坂劇場で行われた「デジタルで蘇る8月の沖縄」は国際通りをテーマにしていたので、数多くの協働大使が参加して、会場から飛び入りでマイク片手に映像の説明をしたり、懐かしい映像を観ながら思い出話に花を咲かせていました。

実際に会場参加して、招待を受けていた各通り会の大勢の協働大使に会いました（知念）

10周年のあゆみ



2011年(平成23年) 8月18日

協議会設立総会

那覇市民会館で「第4期 那覇市協働大使委嘱式」と併せて開催。中央に翁長雄志那覇市長(当時)と銘刈春雄初代会長、そして役員などの皆さんです。



① 協議会の誕生

銘刈会長に協議会設立の思い出話をうかがいました♪



ハイサイ！那覇市協働大使の皆様
私は2008年「那覇市協働大使」に委嘱されました。2011年、那覇市社会福祉協議会の会長時代に、当時の翁長市長から直々に「協働大使の協議会を作るので会長になってほしい」とお言葉を頂き、8月18日の設立総会で就任しました。

協議会の事務所は、当初平和通りにありました。地域の皆様にもご参加いただいて盛大に事務所を開き、市職員の指導のもと「協働のまちづくり」がスタートしました。

拠点を平和通りから、なは市民協働プラザに移し、これまでに842名という協働大使が誕生し、多くの大使が小学校区まちづくりや地域まちづくり活性化の活動を行って今日に至っています。

協働の声

「コロナ禍の「いしんみ防災勉強会」

石嶺小学校区まちづくり協議会・子ども育成部 宮道喜一

昨年度、身近で関心を持ちやすい「防災」の切り口でのオンライン勉強会「いしんみ防災勉強会」を2回企画した。初回は「災害×小学校」として、石嶺小学校区域の地理的な特性を知り、指定避難所としての小学校の役割を学ぶ、2回目は「災害×教育」として、宮城県での福祉・防災学習の実践について学んだ。コロナ禍で先を見通すことができません、活動も制限される中ではあるが、だからこそ、できる方法を模索しながら地域づくり活動に取り組みしていきたい。

どんぐりころころ

金城小学校区まちづくり協議会準備会 宇久淳子

昨年、金城小学校区まちづくり協議会準備会では、日本で一番大きなどんぐりの実がなる木「オキナワウラジロガシ」を植えた。私の思いを実現するために、みんなが奔走してくれた。「協働」を肌で感じ感動した。地域の方々がその木を見に足を運び、そこから会話が生まれ繋がっていく。小さな苗木がゆくり成長していくように地域に根付いた活動をしていきたい、そんな思いを形にした植樹だった。今はコロナで少し停滞しているが「ピンチはチャンス」ネットに弱い役員もいますが、みんなでオンライン会議に挑戦中です。

防災情報周知に協働のチカラを

(一社)災害プラットフォームおきなわ 代表理事 稲垣 暁

今日(5/25)も、災害時危険エリア在住のコロナ自宅療養者を把握し、事前に避難先を確保するよう政府から自治体に要請があった。この1週間、「避難指示の一本化」「要支援者の個別避難計画策定努力義務化」「福祉避難所への誘導方法見直し」と、4本もの防災計画修正が市に課せられたことになる。行政だけで市民に周知することは、これまで以上に不可能。施策がすべての人に伝わるよう、協働大使を活用した広報体制を作れないか。

協働のまちづくりについてのご意見・ご提案・取り組み目録など、あなたの声をぜひお寄せください。(タイトル・本文・三百字以内目安・所属・肩書・お名前)ご連絡先を書いて、下記メールアドレスからFAXへ)

補助金情報

自治会

地域コミュニティ活動感染予防対策事業

校区まち協

地域活動時に、新型コロナウイルス感染症対策のために要する経費や、コロナ禍において、顕在化された課題や新たな課題解決に取り組む活動に要する経費を助成する補助金です。

対象団体／補助金額

- 本市と連絡事務委託契約を締結している自治会／上限 10万円
- 本市より認定を受けている校区まちづくり協議会・準備会／上限 3万円

【申請期限】

2021年 7月 30日(金) 必着

※詳しくは那覇市ホームページをご確認ください。



編集後記

新しい協働通信「な一ふあぬわ」お楽しみいただけましたでしょうか？ 那覇のあちこちで動き回っている協働大使のみなさんのご活躍を「見える化」するべく立ち上げられた「広報部会」。それぞれ「伝える」ことを大切にしている素敵なメンバーの協働により、この広報誌は完成しました！ これを読んだ方が「私も頑張ろう！」「自分の地域でも真似してみよう」「〇〇さんと一緒に活動してみたい」という気持ちになり、地域と地域、協働大使同士の「わ」を広げて、みなさんがいきいきと那覇のまちを一緒に創っていく助けになりましたら幸いです。(由利)

那覇市協働によるまちづくり推進協議会

地域・ひと・団体・行政をつなぎ、みんなが知恵を持ち寄って活動するまちづくりを育成、支援する団体です。

〒900-0004

那覇市那覇市銘刈 2-3-1 なは市民協働プラザ 3F

TEL&FAX 098-955-2282 Mail kyoudoutaisi@gmail.com



ホームページ



Facebook



メール